

### ヤマト絵日記 その19

今日は日曜 お買い物♪  
JR芸備線で庄原に行きます  
おっ！  
庄原さやま  
トレイン  
ラッキー♪

15:04  
かなり  
歩くな  
天気によいので歩きます  
15:30-17:50  
ホームセンターとスーパー  
マーケット2件へ寄ります  
備後庄原駅

17:59  
早く  
帰りたい  
歩いた？  
一万歩も  
歩いた？  
備後庄原発 備後西城行の  
最終便に乗ります  
18:23  
半日も経っていないのに  
車窓の風景はなつかしく  
帰った！  
帰った！  
西城小学校だ  
西城に着くとホッとします

## ドローンサッカー体験会

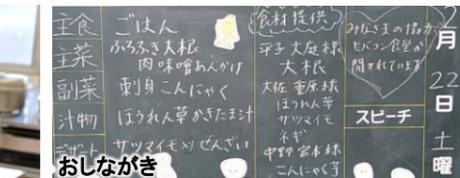
2月18日(火)庄原市社協西城地域センター主催、サロンやデイホームなど、地域の通いの場で活躍されている世話人さん等を対象にドローンサッカー体験・交流会を行いました。

練習用ゴールを目指しコントローラーを指で操作します。3分間の競技時間、目と指と頭の体操です。思い通りにドローンを飛ばすには練習が必要ですが、「楽しかった」「また、やってみたい」の声をいただきました。



## ヒバゴン食堂 2月22日(土)

今回で8回目になります。子どもから高齢者まで誰でも利用できる地域食堂。西城産の大根、ほうれん草、サツマイモ、ネギ、手作りこんにやくなどの新鮮な食材を使ったメニューでした。食材を提供された方々への感謝の気持ちは皆さんの笑顔でわかります。「美味しかった」の声が多く聞かれました。



## キルト・向日葵

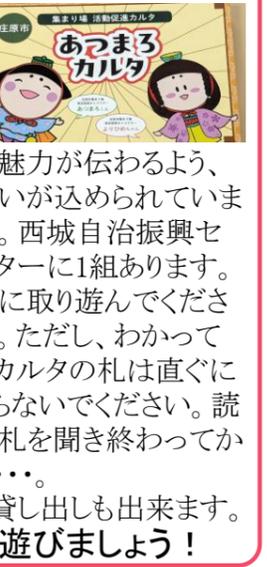
キルト・向日葵は有志で同好会をされています。財布などの小物から2畳四方のタペストリーまでいろいろな物を手作りでの作品です。2月末まで西城自治振興センターのロビーで展示して、多くの人に観に来ていただきました。ありがとうございました。



## あつまろカルタ

庄原市地域ケア推進会議 地域ワーキング委員により「庄原市 集まりの場活動促進カルタ」が作られました。目的はサロンなどで社会参加・交流の魅力を分かち合うことです。地域でのつながりの大切さ、フレイル予防など集まりの場の魅力が伝わるよう、思いが込められています。西城自治振興センターに1組あります。手に取り遊んでください。ただし、わかってもカルタの札は直ぐにとらないでください。読み札を聞き終わってから・・・。

貸し出しも出来ます。遊ばしましょう！



## 地域マネージャー募集

業務内容	防災事業・福祉事業・定住事業・地域振興事業
勤務地	西城自治振興センター(庄原市西城町大佐734)
時間	9:00~16:00の間で応相談(週2日~5日、3h~6h可!)
給与	時給1074円 詳細は西城自治振興区☎82-2175まで

## パソコン教室 参加者募集!

3月21日(金) ※都合により変更になることがあります  
4月11日(金)  
いずれも13:30~ 講師:宮原賢治さん

## 1回5ポイント 来館だけでも

西城自治振興センターにて「なみかカード・ほろかカード」で5ポイント付与されます。1日1回限り 令和7(2025)年3月31日まで

西城自治振興区だより 2025.3.19(水) Vol.153

# 西城まちづくり便

☎729-5722 広島県庄原市西城町大佐734  
TEL/FAX:0824-82-2175  
e-mail:saijyo.jichi@gmail.com

ヒバゴンのまち 自然豊かな広島県庄原市西城町の様々な情報をお届けします♪

西城町観光協会とタイアップした情報サイトです 地域の情報などを発信します \*こちらからお入りください

## 西城町自治振興区連絡協議会 新春講演会 2月23日(日)



講師に府中市上下町 黒木整形外科リハビリテーションクリニック院長 黒木秀尚先生をお迎えし、「県立高校や公立病院などの社会的 共通資本を持続可能にして故郷と平和を守ろう! ~草の根の住民運動から得た教訓~」を演題に、府中市上下町で「地域医療を守る会」、「上下高校を支援する会」などの会長を務められ、住民運動の先頭に立って活動された経験をもとに、地域医療を公立病院である西城市民病院の必要性と西城紫水高校を存続についての講演会を開催した。



「地域に一つしかない学校や公立病院といった社会的共通資本がなくなると地域がなくなっていく」、「良い医療と教育には、良い政治が必須」、「救急車搬送時間が短いほど救命率は高く、車で30分圏内に公立病院が必要」と話され、地域医療を守るために広島県知事に陳情や署名活動等をしてきた経験を伝えられた。

また、人口減少について、「人口減少の解決策は、東京一極集中の是正故郷Uターンの促進。いま、全国の若者たちの間で、同時多発的に地方回帰の動きが起きている。しかし、地域の病院と学校がなくなれば、若者は帰れない」と呼びかけられた。

<講演に参加された方から>

- ・西城市民病院を中心とした地域包括ケアは住んでいると当然のように感じていたが、それが当たり前でないことがわかりました。
- ・西城紫水高校の存続は私たち住民が覚悟を持って守っていかなければ残していくことは難しいと思う。
- ・今日の黒木先生のお話は本当に参考になり、改めて故郷を守る事や持続可能なまちづくりの参考になりました。



## 芸備線再構築に関する調査事業

2月4日(火)芸備線再構築協議会(受託者:榊野村総合研究所)により、西城地域自治振興区(八鉾・西城)会長等対象にヒアリングが行われました。芸備線の可能性を最大限追及するための調査です。アンケートやデータを基に現状の把握と利用を活性化するための施策とその効果等の試算を行うことで芸備線の多様な価値を分析するためです。

本数減や連絡の悪さなど利用しにくさはあるものの、学生利用や観光などに必要で価値があること、廃止してはいけないとの想いを伝えました。



### 西城自治振興区 環境福祉部会(第4回)

今年度第1回の環境福祉部会で「第9期 庄原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画について」の中の、基本理念の「あんしんの実感できるまち」、基本目標の「高齢者の自立と安心を支える町の実現」に沿っての基本政策から、3回の講習会を計画しました。8月23日に庄原市の地域包括ケアシステム。11月29日は認知症サポーター養成講座。今回(1月31日)は庄原市版終活ノート「いきかたノート」です。

「いきかたノート」は人生のゴールに向け日々の暮らし方、介護や医療が必要になった時にどこでどのように暮らし、どのような医療・介護を受けたいかを記しておく、家族や身近な人に話しをするきっかけにするものです。庄原市内の医師や看護師、介護職、地域福祉職、自治振興区の役職員など、さまざまな立場の方々の協議を基に作成されたものです。



赤・青・黄色のカードで意思表示

今回の講座でいきかたノートの目的をわかってもらうこと。自分のためであり、家族のためでもあること。また、自分自身が認知症等になった時に備えをするものです。

介護が必要になったらどこで暮らしたいか決めておくことも必要です。アンケートでは53.7%は今住んでいるところ。23%は介護の出来る場所を望まれています。

いきかたノートは講習を受け、内容を分かってもらわないと配布はできないものです。それは、誤解が起きてしまわないようにするためです。

講師の庄原市役所生活福祉部高齢者福祉課清水めぐみ様は「西城市民病院の強みは家に医療が届く制度が整えていること」だそうです。

西城に住んでいて医療や介護で困ったとき「しあわせ館」に相談できるよさがあること。先人が構築した「あんしんの実感できるまち」であることを感謝し、伝えていかなければと思いました。

### ♪コールグリーン西城♪

私達は三宅先生のご指導の下「歌が好き」「歌う事が好き」な者が集まり昭和57(1982)年に発足、今年で44年になります。

当初は地域のイベントや小中学校の行事への参加程度の活動でしたが、平成元(1989)年に県北合唱祭に初めて参加し、他のグループのハイレベルな歌声に圧倒され、大きなホールで緊張しながらも、多くの人の前で歌える感動を覚えました。

それが大きな励みになり、力を与えてもらい、それからは合唱祭出演を一番の目標とし、ロビーコンサートにも、ホールコンサートにも出演させてもらう事も出来ました。

家庭の事情や体調面などでグループを離れた仲間もいたり、悲しい別れもあったりで、メンバーは大幅に替わりました。

コロナ禍からは、やむ無く活動休止もし、マスクを付けて再開してからは今も相変わらずマスクを付けての練習ですが、指導の三宅先生や伴奏の窪田先生の後押し、前への引っ張り、激励の支えが有るからこそ頑張れています。



練習風景



県北合唱祭 in 三次市民ホールきりり

昨年からは、練習会場を広すぎるウイルホールから自治振興センターに変更移動し練習日を月2回から、週一回の時間短縮に変更しました。

高齢化で暗譜にも時間がかかり、人数が減る中、心強い復活メンバーも有り、元気に大きな声で、楽しく歌える事に感謝しています。

みんなの声、みんなの心が1つになった時のハーモニーは、コーラスの醍醐味です。

私達は、力の限り1曲1曲を大切に歌い、感動と楽しさを繋げていきたいと思っています。

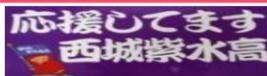
歌の好きな人、歌うことが好きな人、一緒に楽しみませんか。

コールグリーン西城 代表 中村美和 談



コールグリーン西城の皆さん

### ～広島県立西城紫水高校の生い立ちをめぐって～



西城紫水高等学校の前身は1928(昭和3)年、家庭人としての女子教育を目指す被服単科の「西城町立実科高等女学校」として、西城小学校校舎に併設してスタートしたところから始まる。そして 1943(昭和18)年、「町立西城高等女学校」と改称。戦後 1946(昭和21)年、西城町横町に独立校舎を新設移転した。以来、幾たびかの学制改革や高校再編成により、庄原の「比婆西高校分校」と、先の高等女学校から名称変更した「町立西城家政専門学校」との並立時代を経て 1952(昭和27)年、地域密着型昼間定時4年制の「町立広島県西城高等学校」として再発足したのである。

私が新卒の新米教員として本校に赴任したのが、この翌 1953(昭和28)年4月だった。当時の西城町は、西城高校の県立移管を目指して「教育振興推進協議会」(名称に誤りがあればお許しください)なる組織を作り、町長を会長に各分野の代表者が顔を並べ、全町上げた取り組みの最中だった。私事で恐縮だが、そんなとき新任早々の私は校長室に呼ばれ、先の「教振会」として県に提出する、県移管を願う「趣意書」の文案作りを命じられた。来たばかりの新米にやらせんでも、校長も同じ国語教員なのにと内心想ったものの口に出せるはずもなく、非才にムチ打ちながら4日3晩かけて書き上げたものだ。今にして思えば、これも故事にある「獅子はわが子を谷に落として鍛える」という校長の親心だったのだろうにと、若気の至らなさを恥じた。これも、県移管運動にまつわる笑話の1つに過ぎないが、行政、町民、高校と、三者一体の念願叶って翌1954(昭和29)年、晴れて「広島県立西城高等学校」と改称したのである。小学校の講堂(体育館)を借用して盛大に行われた「県移管記念式典」での関係者、町民の笑顔は、今も記憶に残る。

以上、西城町に高校教育の場が誕生してより、幾多の変革を経て辿ってきた前半の経過について、史料を抜粋しながら些かの感想・エピソードを交えて述べてみた。

県移管以降は、1968(昭和43)年に「広島県立西城商業高等学校」と名称を変え、1970(昭和45)年

の体育館完成を挟んで1998(平成10)年に現在の「広島県立西城紫水高等学校」に至る流れについては、年代的によくご存じの方も多と思うので、あえて省略させていただいた。

補足として、私が新任教員時代を過ごした12年間で、特に印象に残る体験の一端に触れておきたい。

#### ◎みんなで汗を流した運動場建設

1959(昭和34)年から始まった校舎の現在地への新築工事に併せて行われた荻野原を開拓しての運動場作りは、当時のこと、多くは「もっこ」を担いでの人力作業だった。休日には保護者の手も借り、職員生徒は放課後、時には体育の授業を充てるなどしながら全校挙げて流した汗に、完成時の喜びはひとしおだった。

#### ◎町民と楽しんだ大運動会

校舎の隣に小さな運動場しかなかった時代は、屋外の全校行事は全て小学校のグラウンド及び体育館をお借りしていた。小学校さんのご厚意を改めて思う。運動会でのメインは、なんと言っても全校生徒教職員に観客も加わって華やかに行われた「豊年祝い民謡祭り」の一幕だった。全国の有名民謡の振り付けで踊りながら、最後は「西城川音頭」で締めるといふ、町民の多くが毎年楽しみにしていたイベントだった。

#### ◎楽しかった放課後・生徒との交流

授業が終わって特に会議や行事など無い日は、教職員でソフトボールのチームを作って、生徒のクラス別チームと試合をするのが常となっていた。こんなことは、今の時代では想像もできないことかもしれないが、私からすればいい時代だったと懐かしむ思いの方が強い。

最後に、教員として12年間のご縁をいただき、間もなく100年を迎える学び舎の歩みを振り返りながら、今ある広島県立西城紫水高校が、豊かな自然の恵みと町民の温かい支えの中で、より力強く育って欲しいことを願ってやまない。



御年95歳 お元気な中山道さん

元西城高校教員 中山 道